



西方に光あり

大垣市立西中学校 HP <http://www.ogaki-city.ed.jp/nisichu/index.html>

◎学校の教育目標
見つめ 考え 創りだす

私たちは

「西中人権宣言」を守ります

西中人権週間 12月6日～12月12日

西中人権集会

12月6日

どうして、あんなことを言われなければいけないのか。
どうして、私だけ言われなきゃいけないのか。
どうして、こんな辛い思いをしなきゃいけないのか。
どうして、毎日がこんなに楽しくなかったのか。
私はみんなに何か、してしまったのだろうか。

はじめは、何気ない友達の一言から始まった。
しかし、いつの間にかそれが日常になり、クラスの大半から言われるようになっていった。
私は毎日が本当に辛くて、辛くて、苦しかった。
自分では、どうしようもできなくて、泣くことしかできなかった。
でも誰にも相談できなかった。

ある日、勇気を出して「やめて。」って声に出してみた。
…けれども、誰にも届かなかった。
それどころか、みんなは、笑っていただけだった。
いつもどこかで、誰かが私のことを言っていた。
私の心の傷は、どんどん広がっていった。
私は誰も信じられなくなった。
私は誰かに気づいてほしかった。
みんなが笑うその一言で、私は傷ついていることを…。
何気ないその一言で、私が傷ついていることを…。

どうしたら、やめてくれるのかをずっと、ずっと、考えていた。
けれど、もうそれさえも、疲れてしまった。

「これが西中の現状です。」

アンケート結果をもとにした生徒会執行部からの一言に反応するように、仲間の気持ちを考えることや、知らず知らずのうちに人を傷つけてしまっている自分に気付くことの大切さについて話し合いました。のべ51人の生徒が自分の思いを全校の前で語りました。

西中学校の人権週間は、一人一人が人権問題を自分自身の問題として考えることから始まりました。

司会の森愛夢さんが「発した言葉は消すことができない。」と述べたように、軽はずみに言った言動が相手を傷つけます。軽はずみだから怖いのです。言った側が軽はずみということは、言った本人には自覚がないことが多いのです。

人を傷つけるのは暴言だけではありません。無関心な行動にも目を向けなければなりません。

自分の言動が人を傷つけることに自覚をもたなければなりません。本人が気が付けられないのなら、周りが教えてあげなければなりません。隣の仲間が、今苦しんでいるのかもしれない。救えるのは、「誰か」ではなく、「あなた」自身なのです。



西中人権宣言

- ・誰にでも笑顔であいさつをします
- ・仲間のために進んで働きます
- ・人を傷つけません
- ・見て見ぬふりなど、無関心な行動はしません
- ・仲間のよさを一日一つ以上みつけます

全校集会での発言者

多賀寛耕、上田樹、奥田晴香、高木誕、吹原義実、桑原みなみ、井上紗菜、藤本カロリーナ、河合翔太、橋本実和、平田硫弥、浅野文菜、栗田藍央、大橋美咲、佐藤侑奈、奥田渉、浅野華穂、橋本和磨、岡安航太郎、上田絵美、岡元彩千哉、伊藤光輝、桐山勇輝、名和佑紀乃、大田空奈、加藤祐也、大宅未久、細川諒、三輪恵大、児玉成美、内木麻莉子、高木美月、内山達也、溪由美子、丸野峻、奥田麻友、福田梨緒、加藤涼子、早野俊一郎、土屋諒真、細江丞、太田マテウス、北村翔也、馬渡成美、星野滉平、和田唯加、三島峻

